

# 森林×脱炭素チャレンジ2022

脱炭素への貢献をはじめ、様々な活動内容から  
企業による森林づくりを顕彰



日本の国土の3分の2は森林が占め、これらを適切に整備、保全することは、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながり、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献します。また、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全といった公益的機能を発揮させる上でも重要であり、公的な資金を活用し、森林整備に取り組んでいます。

一方で、SDGsやESG投資への関心が高まる中、企業等が支援等を行って森林づくりが全国で広がっています。民間の活力を生かした森林づくりは森林整備による地球温暖化対策を国民運動として展開する上で、また、豊かな自然を未来に守り伝えるためにも重要です。このため、さらに多くの企業等に森林づくり

へご参画いただくことを目指し、今回、企業等による森林づくりを「脱炭素」という視点等から顕彰する新たな取組「森林×脱炭素チャレンジ2022」を行うこととしました。

今回選ばれた10件の受賞者について取組の概要をご紹介します。

- 応募期間：令和4年2月18日～4月8日
- 応募数：55件
- 審査基準：令和2年及び令和3年の間に行った森林整備について、「整備した森林のCO<sub>2</sub>吸収量」「森林整備の取組内容」を総合的に判断
- 応募対象：令和2年及び令和3年の間に自ら又は支援により森林整備を行った法人、団体、個人、地方公共団体
- 受賞者公表：5月13日

## グランプリ（農林水産大臣賞）

## アサヒグループジャパン株式会社

816t-CO<sub>2</sub> / 年

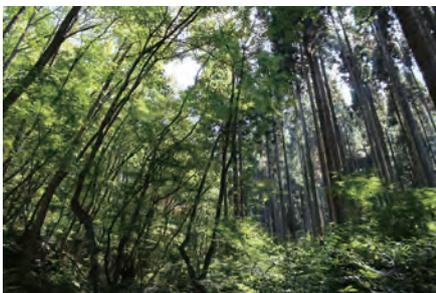
同社は、ビール瓶の王冠に使用するアベマキの樹皮を採取するため、1941年に広島県内の山林を取得し、社有林「アサヒの森」として継続的に管理してきました。森林認証の取得、森林経営計画の認定を受け、森林整備を計画的に行い、持続的な森林経営を実践しています。

2021年からは、社有林だけでなく、その近隣の財産区と森林保全管理協定を締結し、社有林と一体的な管理を行っています。長年にわたるアサヒの森の経営ノウハウを活かして、地域の環境保全に貢献するとともに、財産区に収益を還元しています。また、

地元の小学校や大学と連携し、アサヒの森を活用した森林環境教育を実施しており、地域の子ども達が森林や林業へ関心を持つきっかけとなっています。

アサヒの森では、生物多様性の保全に向け、継続的に動植物の調査を行っており、ブッポウソウの巣箱設置など希少種の保全にも取り組んでいます。

さらに、文化財修復用の木材や檜皮などを提供する森林として、文化庁より「ふるさと文化財の森」の認定を受けるとともに、同社の国内ビール工場で使用する水相当量を、アサヒの森が地下水として安定的に供給する「ウォーターニュートラル」を目標に掲げて森林の経営管理に取り組んでおり、アサヒの森が生み出す恵みは、地域に大きく貢献しています。



アベマキ林と針葉樹林



巣箱を活用するブッポウソウ



優秀賞（林野庁長官賞） — 「伐って、使って、植える」森林の循環利用への貢献 —



森林整備（利用間伐）



四万十町庁舎（結の森の間伐材家具を使用）

コクヨ株式会社

842t-CO<sub>2</sub> / 年

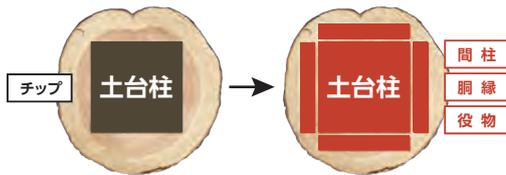
同社は、高知県、四万十町、四万十町森林組合との4者で協定を締結し、2006年より四万十町の民有林の整備・保全活動を行う「結の森プロジェクト」を展開しています。

森林資源の持続的な活用を通じて森林保全を図るとい考えの下、四万十町森林組合との連携により、整備した森林から生産された間伐材を活用した家具を開発し、全国で販売しています。

また、毎年、地元の人々と協働で、間伐による植生や生態系の変化などに関する調査を実施し、適切な森林整備の効果を発信しており、地元高校生の学びの場としても高く評価されています。

効率型・量産型

歩留型



歩留まりを向上させる木取方法



大分のパートナー製材所の作業

越井木材工業株式会社

346t-CO<sub>2</sub> / 年

同社では、社有林を適正に経営管理することは、SDGsの達成や地球温暖化対策に貢献するという考えの下、森林経営計画の認定を受けて、植林から木材利用に至る持続的な森林経営に取り組んでいます。

特に、再造林の促進に向けて、生産された木材の販売収益を高め、山元へ還元できるよう取り組んでいます。具体的には、木材を無駄なく使うよう、歩留まりを高める製材を推進すべく、理念に共感する製材所などとの間で、サプライチェーンの構築に取り組んでいます。

このサプライチェーンには、各地域の森林組合や原木市場も参画し、社有林からはじまった取組が全国へと波及しています。

一般社団法人

TOKYO WOOD 普及協会

42t-CO<sub>2</sub> / 年

同協会は、「メイドイントーキョーの家づくり」を合言葉に、東京の木による家づくりを通じ、健全な森林を維持していくことを目的として、多摩地域の林業会社、製材所、プレカット事業者、工務店によって結成されました。

同協会では、会員の製材所が生産する木材について、厳しい品質基準を設定し、この基準をクリアした木材を「TOKYO WOOD」と名付け、ブランド化し、会員であるプレカット事業者、工務店に供給することで、地産地消の家づくりを実現しています。

また、施主やその家族を森林や製材所に案内するツアーを開催するなど、東京の木による家づくりの意義を消費者に伝え、持続的な森林づくりに取り組んでいます。



「TOKYO WOODの家」の建築



「TOKYO WOODの家」建築予定者のバスツアー



優秀賞（林野庁長官賞） — 山村地域の振興への貢献 —



笛吹芦川での植樹



地域文化との交流（熊本山都ツアー）

認定特定非営利活動法人  
環境リレーションズ研究所

100t-CO<sub>2</sub> / 年

同団体は、「贈り物に木を植えよう」を合言葉に、全国の造林未済地や災害跡地などにおいて、都市部の個人や法人などの寄付により、大切な人や自分自身への「贈り物」として記念樹を植栽する「プレゼントツリー」の取組を運営しています。

この取組では、記念樹は、森林組合等の現地協働者により植栽、以後10年間に亘り保育管理され、これらは寄付金で賄われます。さらに、記念樹を贈られた方を現地に招いて植樹や保育活動を実施するとともに、地元住民や林業事業者などが参加する交流イベントを開催します。

各地域の自治体からは、この取組を通じて、交流人口の増大にもつながると期待が寄せられています。



「ごうぎん希望の森」での活動



連携組織「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」での会員交流

株式会社山陰合同銀行

41t-CO<sub>2</sub> / 年

同行は、地域金融機関として、地域課題の解決など地域経済・社会の持続可能性を高めるための活動に取り組みできました。

その一環として、2006年から、島根・鳥取両県の6カ所の「ごうぎん希望の森」において、行員やその家族のボランティアによる森林整備を行うとともに、その活動状況を広報誌やポスターにより情報発信し、普及啓発に取り組みできました。

さらに、森林保全活動に関わる地元NPO法人・団体間の情報交換や交流促進に向けた連携組織を立ち上げ活動を支援するなど、森林づくり活動を通じた地域活性化に貢献しています。



広葉樹林整備の技術研修会



「ホワイトパーチ×イケダ」のシラカバのコースター

北海道 池田町

10t-CO<sub>2</sub> / 年

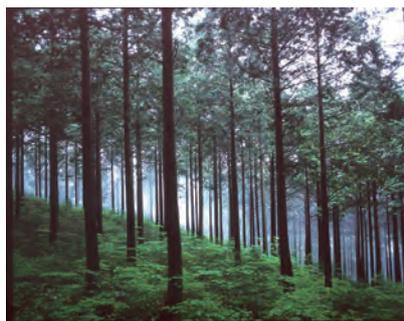
同町は、地場産業である木炭製造と、長年手つかずの状態であった広葉樹林の整備を進めるため、森林整備に関する技術研修会などの開催を通じ、森林管理に関心のある地元住民などの協力による多様性に富んだ森林づくりを進めています。

間伐された広葉樹の丸太を、町内の製炭事業者のほか、シラカバの樹皮や丸太を活用した木工製品を製造する地元のクラフトブランド「ホワイトパーチ×イケダ」へ供給することで、地元産業の振興に貢献しています。

また、これら広葉樹林は、森林資源を活用した物づくりをテーマとした、地元高校生に対する森林環境教育の場としても活用されています。



優秀賞（林野庁長官賞） — 森林の有する公益的機能発揮への貢献 —



“保続林業”の理念の下整備された社有林



林業用運搬ドローンの開発、販売



コンテナ苗（カラマツ）

住友林業株式会社

3,415t-CO<sub>2</sub>/年

同社は、全国に社有林を有しており、森林の公益的機能を保ちながら、森林を持続的に活用する「保続林業」の基本理念の下、森林認証を取得し、経営管理を行っています。

社有林をゾーニングし、環境保全を重視するエリアで間伐等の森林整備を行いながら、木材生産を重視するエリアでは公益的機能の発揮に配慮した皆伐、コンテナ苗木を利用した再造林に取り組んでいます。

様々な生物の生息域となる河川等に隣接する水辺林の保全や希少種の保護など生物多様性の保全に努めるとともに、森林経営・木材建材製造・木造建築などの「木」を軸とした事業展開により、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。



妹の誕生を記念し、苗木を植えるお兄ちゃん



植樹者名簿とメッセージ集



ピジョン株式会社

40t-CO<sub>2</sub>/年

同社は、1986年より「育兒と育樹、心はひとつ」をスローガンに、赤ちゃんの誕生を記念した植樹キャンペーンを実施しています。このキャンペーンでは希望者の中から赤ちゃんとその家族を招待し、茨城県の「ピジョン美和の森」で毎年植樹式を行っています。

植樹後は、地元の美和木材協同組合の協力の下、下刈りや枝打ちなど森林管理を行っています。元々針葉樹が主体であった森林に広葉樹を植栽して針広混交林化を図るとともに、「ビオトープを整備するなど、生物多様性の保全に取り組んでいます。

これまでキャンペーンに参加した家族が子どもの成長の節目に森へ訪れるなど、都市部住民に自然環境とふれあう機会を提供しています。

公益財団法人 ニッセイ緑の財団

147t-CO<sub>2</sub>/年



ボランティアによる間伐作業



ふれあい森林教室

同財団は、1993年より、全国の「ニッセイの森」において、ボランティアなどによる森林整備を実施し、これまでに延べ3・9万人により138万本の植樹を行い、針広混交林など多様な森林づくりに取り組んでいます。

「ニッセイの森」の多くは、国有林で分収造林契約を結んだ森林です。国有林を管理する各森林管理局では、契約を結んでいる森林について、毎年、二酸化炭素固定量、水源涵養等の「環境貢献度評価」を行っており、同財団では、その結果を広く発信しています。

また、「ニッセイの森」では、小学生を対象としたふれあい森林教室を開催するなど、多くの人々の森林への理解・関心の向上に貢献しています。



# 森林×脱炭素チャレンジ2022 表彰式を開催



木製銘板を持つ受賞者代表の皆様

注：胸章は、宮崎県の福祉施設がスギのカナクナで製作したものを着用。



詳細はこちら



6月22日、農林水産省本館7階講堂において「森林×脱炭素チャレンジ2022」の表彰式を開催しました。

当日は、受賞企業等の代表者や社員の方々、報道機関など総勢60名にご参加いただき、農林水産省からは、武部農林水産副大臣が出席し、祝辞を述べました。続いて挨拶を行った天羽林野庁長官(当時)は、「本取組を含め、企業など多様な主体が森林づくりに取り組みやすい環境整備を進めていきたい」と意欲を述べました。

グランプリを受賞したアサヒグループジャパン株式会社代表取締役社長の濱田様からは、「今回の顕彰の取組は、森林の脱炭素機能発揮等における森林整備の重要性を世の中に広く周知する契機となる。」と本顕彰の取組に対する期待の言葉をいただきました。

受賞者代表の皆様には、木製の表彰状や楯を贈呈し、木の香りに包まれて大変和やかな会となりました。

また、表彰式の後には、受賞者名と二酸化炭素吸収量を記した木製銘板を林野庁長官室前に掲示しました。

## 企業による森林づくりの取組を普及

### 受賞者の取組内容やその背景等を伝える「受賞者レポート」

「森林×脱炭素チャレンジ2022」受賞者による森林づくりの取組内容やその背景について、分りやすく説明した「受賞者レポート」を林野庁ウェブサイトで公開しています。



### 森林づくりを通じて脱炭素に貢献する証「グリーンパートナー2022マーク」

「森林×脱炭素チャレンジ2022」に応募いただいた企業等の皆様については、森林整備を通じて脱炭素に貢献する「グリーンパートナー2022」として、林野庁ウェブサイト上で応募者名及びCO<sub>2</sub>吸収量等を公表しています。

また、「グリーンパートナー2022」の皆様には、右のマークを森林整備に係る取組のPRにご活用いただけます。

